

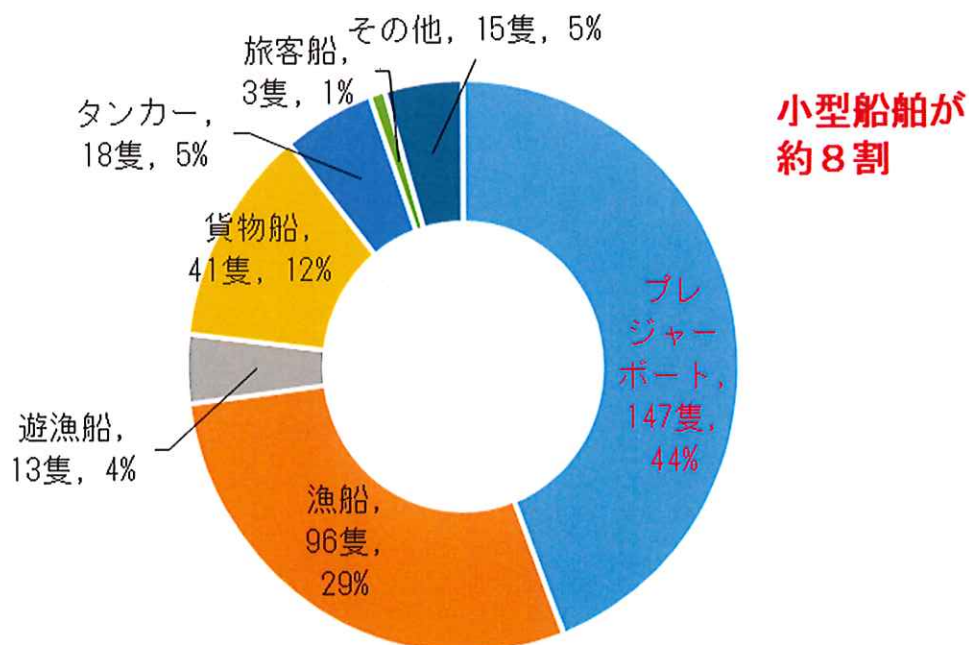
発航前検査の徹底と専門業者による定期的な

点検整備をしよう！！

第七管区海上保安本部提供による九州北部管内の令和2年の船舶海難事故の発生状況によれば、プレジャーボートによる海難事故が全体の5割弱を占め、その中でも機関故障の割合が高い傾向にあります。特に、令和2年は、コロナ禍において、3密回避による屋外レジャー活動が活発になり、操縦者免許を取得する者も増え、新たに中古船を買ったり、今まで使用していなかったボートを久々に海上で使用するなどもあり、整備不良、老朽化による不具合等も含め、機関故障が従来より多くなっている傾向が全国的に見られます。

九州北部管内(七管区管内)の船舶種類別の海難隻数割合

毎年の傾向ではあるが、全体海難のうち、プレジャーボート、遊漁船、漁船の小型船舶による海難が8割を占め、その中でもプレジャーボートが44%と最も多い。



プレジャーボートの事故種類別の海難隻数割

プレジャーボートの海難のうち、機関故障による運航不能が 19%を占め、最も多く、機関故障の原因では、機関整備不良や老朽衰耗によるものが多いことから、ユーザーは、発航前点検の徹底を図ってほしい。また、令和2年の7月から9月の2か月間による詳細調査では、8割が専門業者でなければ整備できないものであり、あらためて専門業者による定期的な点検・整備も必要と考えられます。

